

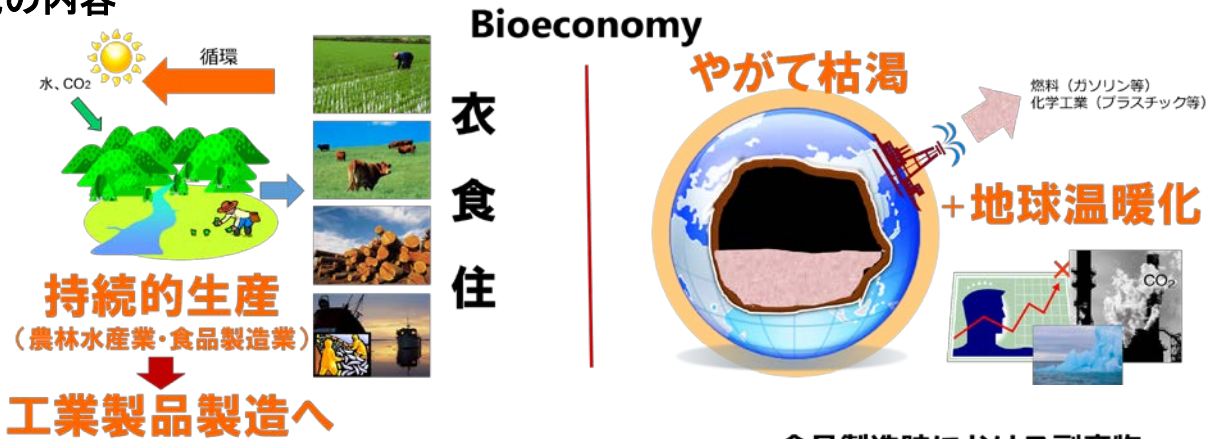
Bioeconomyと食品製造工程の高度化

— 生物資源変換ユニットは、繊維性資源の新変換工程を開発 —

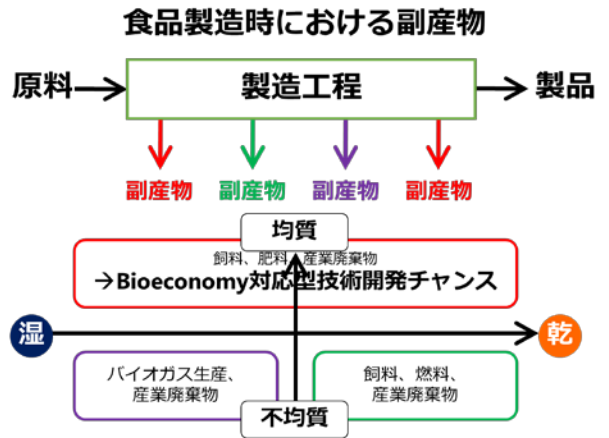
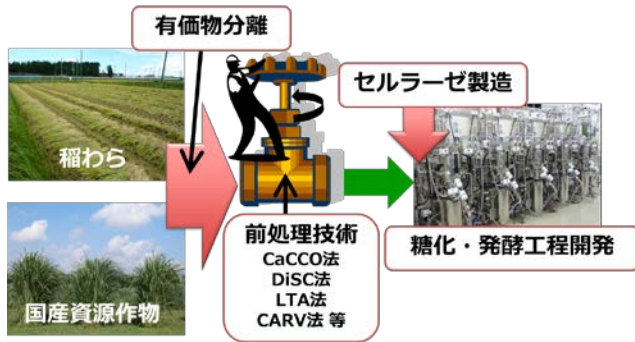
技術の特徴

- ・Bioeconomyとは、「やがて枯渇する化石資源の使用を減らし、循環型資源からの有価物製造システムを構築すべき」という考え方。循環型資源活用システムである農林水産業・食品産業の現場で本概念を導入することにより、環境に配慮した製造工程高度化と副生物の高付加価値化とを両立。
- ・食品製造業では、Bioeconomy対応型の変換に適する均質な製造副産物を周年供給できるケースが少なくない。当ユニットでは 前処理技術や酵素糖化技術などの繊維質資源変換技術を活用し、来たるべき資源新時代に対応可能な工程高度化を提案する。

研究の内容



生物資源変換ユニットの繊維質変換技術



今後の展開

- ・食品製造業等との情報交換を通じ、製造工程中の繊維性資源の利用状況を把握し、各資源の高付加価値化の可能性を検討する。
- ・純度の高い未利用資源の高度利用に向けて、当ユニットの前処理技術に関する知見、酵素変換技術等を活用しつつ新工程の提案に繋げる。
- ・日本型Bioeconomyの形成に向けた、食品製造業による工程高度化への先進的取組に対して、技術的側面からの協力・支援を行う(お気軽にお問い合わせください)。

参 考

- ・変換工程における中核技術の一つとなる、セルラーゼの小規模オンサイト供給技術については、微生物酵素の生産技術開発体制を強化し、技術高度化を図っている。



農研機構
食品研究部門

代表研究者：徳安 健、池 正和、山岸賢治
所 属：食品生物機能開発研究領域
生物資源変換ユニット

問い合わせ先：029-838-7300